

はぐくむ つながる よりそう すまい ～下川町環境共生型モデル住宅美桑の取り組み～

櫻井 百子 (アトリエ momo)



01

■ 森のまち「しもかわ」

北海道の北部に位置する下川町は、人口3700人ほどの緑豊かなまちです。夏は30度を越え、冬は-30度を下回り年間の気温差が60度以上にもなる「寒暖の差」が激しい地域です。町の総面積の約90%が森林であることから、基幹産業として発展してきた森林・林業では、循環型森林経営の確立を目指して、北海道で第一号のFSC森林認証の取得、森林バイオマスの総合的な利活用などに取り組んで、2008年には国の「環境モデル都市」、2012年には「環境未来都市」の認定を受けました。これまでの取り組みを持続・発展させて、地域の活性化に結びつけた取り組みと低炭素社会の構築を積極的に推進しています。

■ 「しもかわ」らしい 環境共生型住宅をめざして

2009年5月、下川町は、環境省が公募した「21世紀環境共生型住宅のモデル整備による建設促進事業」の対象自治体として全国20箇所の中の1ヶ所として選定され、これまで進めてきた循環型森林経営の一端を担う環境共生型のモデルハウス建設を行うこととなりました。^{※1}

モデルハウス建設にあたり、設計者選定の公募型プロポーザルが行われました。応募にあたり参加した、下川町での勉強会はとても感動的なもので、「伐採した樹木を大切に利用し尽くす。」そんな循環型森林経営の姿勢が熱く伝わってくるものでした。はぐくむ つながる よりそう すまいと題した提案では高性能な建築を目指すのはもちろんのこと、その姿勢を受け継いで、すばらしい下川町の素材をまるごと活かしたい！という想いが伝わり、モデルハウス建設に携わらせて頂く

ことにつながりました。また、素晴らしいロケーションのなかに自然となじみ、下川町の方々に愛着を持って末長く利用していただくことが更なる環境貢献につながるのでは、という想いで設計を進めました。

■ 「しもかわ」だからこそできることを

大きく張り出した庇とともに、北海道らしいシンプルで力強い直方体のボリュームで構成した建物のデザインはもちろんのこと、周辺環境から逸脱せず、奥ゆかしくたたくような配置計画、環境の厳しさに対応できる徹底的な断熱気密とどこまで開放的にできるかの挑戦。建物で使用する木材のほぼすべてを下川の森林から伐採されたFSC認証カラマツ材を使用することで、ウッドマイレージを劇的に減少させること。それを通じてCO2削減と林業の振興に貢献することや、バイオマスを積極的に利用することによってCO2の排出も最小限にし、トータルでゼロカーボンを目指すこと。などが、設計を進めるにあたって大変大事なポイントとなりました。

■ 美桑という素敵な名前をいただいて

補助金などの事情で、約1ヶ月あまりのタイトな設計期間をへて、冬期間の工事が始まりました。工期が短い中、FSC森林認証の取得の為の材料や書類の監理、できるだけ敷地の樹木を伐採せずに施工することで、重機の配置や資材の搬入などで工事された方々は苦労した点多かったことと思います。こうして地元の工務店の高い技術力と細やかな配慮で、2010年3月に予定通り無事竣工することができました。

また、昔、桑がたくさん自生していたこの地域が美桑(みくわ)と呼ばれていた経緯から、素敵な名前を頂き、町の方々



02

01 建物正面：林の奥にひっそりと奥ゆかしくたたく
02 冬の夕景：夕闇の中で行灯のように雪を照らす
03 建物内観：地域材をふだんに使った内部空間 ※01～03の写真は KEN 五島撮影
04 暮らしの楽しみ発見塾：地域の方を先生にしてみんなでわきあいあしとしかわの魅力に触れる。
05 発見塾つうしん：終了後発行されるつうしんは、参加者さんの楽しみでもあり、新しい参加者を増やすツールでもある。地元の魅力発信のきっかけに。



03

に愛着を持って頂けるよう、また、町外の方々にもエコハウスを通して町の取り組みを知って頂くきっかけとして積極的な普及活動が始まりました。

■ エコハウス普及活動と性能検証

2010年4月のオープン以降、視察・宿泊体験^{※2}等で全国から約3000名の方々に来訪いただきました。(2012年3月現在)

また、下川町が設置するエコハウス推進地域協議会には、地方公共団体をはじめ、各地域におけるエコハウス建築の推進に関わる様々な人が加わり、エコハウスの普及に向けて連携して取り組んでおり、パンフレット、DVD、展示パネルの作成や各種勉強会、セミナーの企画運営、視察者の受け入れなどを積極的に行っています。

昨年度からは、建物だけの環境配慮だけでなく、「使う人の意識がとても大事。地域の方々のエコハウス利用のきっかけにも。」という想いから、下川町やその周辺一般の方々を対象に、「暮らしの楽しみ発見塾」と題して、定期的にワークショップを開催しています。地域の方々に講師としてお招きし、エコハウスで地元食材にふれたり、地元のよさを再発見する体験を通じて環境配慮に対する意識向上をはかっています。

今年度はエコハウス周辺整備にも力を入れ、地域に自生す

る植物のモデルガーデンや、宿泊体験者にも利用して頂けるキッチンハーブガーデンなどを整備することで、ますます地域の方々、利用者さんたちに愛着を持って頂けたら幸いと感じています。

また、建設時より、東海大学旭川校舎大学院や、北方建築総合研究所の協力を得て、その後東京大学前研究室にもご協力頂き、通年にわたり環境測定による性能検証も行っており、エコハウスの性能を目に見える形で発信して行けるよう努力をしています。

完成が終わりではなく、始まりのきっかけであると肝に銘じて、今後もこのような取り組みに設計者として、「しもかわ」の応援団として関わって行きたいと願いつつ、またエコハウスをきっかけに様々な形で心や環境に負担をかけない暮らしの在り方を学び、考え、設計を通じて伝えて行きたいと考えています。

※1：詳しくは環境省HP<<http://www.env.go.jp/policy/ecohouse/index.html>>

※2：お問い合わせは五味温泉(電話01655-4-3311)まで



05



櫻井 百子 (さくらい ももこ)

1973年北海道旭川市生まれ。北海道東海大学芸術工学部卒業後、都市計画事務所、アトリエ設計事務所を経て2008年アトリエ momo 設立。子育てしながら、こころや環境にできるだけ負荷の少ない設計を心がけている。平成22年度北海道赤レンガ建築奨励賞、2011年度JIA環境建築賞(優秀賞(住宅部門))受賞。